

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

○15問中12問以上の正解者が全体の35%以上を占め、県、全国と比較しても良好な結果であった。

《国語の特徴や使い方に関する事項》

○文の成分の順序や照応についての理解は県とほぼ同等、全国を上回る正答率であった。

○漢字「満ち足りた」は7割の生徒が正しく書けていた。

○短歌で用いられている技法については6割以上が正答しており、県や全国と比較しても良好な結果であった。

○情報の扱いに関する事項については全国・県とほぼ同等であった。

○行書の特徴についての理解もほぼ県・全国と同等であった。

《話すこと・聞くこと》

○全体に概ね良好であった。

○フィルターバブル現象についての話し合いの問いでは、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること」も「資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えること」も全国より1割以上高い正答率であった。

●話し合いの発言を踏まえ「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを記述する設問では無解答が1割あり、正答率も県・全国と比べ低かった。条件が3つあるが、そのうちの2つまではクリアできている答えが多く、条件と照らし合わせて解答を吟味する力も磨く必要がある。

《書くこと》

○問いは2問であったが、どちらも良好で、全国・県よりも正答率が高かった。

○「紙の辞書」が主人公の物語の最後の場面を、構想のメモを基に創作する問いでは、自分の考えが伝わるような文章を工夫することと、その表現の工夫について説明することをおよそ6割の生徒ができており、全国・県と比べても良好な結果であった。

《読むこと》

○全国・県とほぼ同等の結果であった。

●説明文における図の役割を選択する問いでは正答率が4割程度で、決して良好とは言えないが、県・全国と比較すると理解している率が高い。

○目的に応じて必要は情報を要約する問いでは、半数以上が正答にたどり着いており、県・全国よりも正答率は高かった。

●短歌における情景の時間帯の推移を捉える問いでは、問題文の「夕方から翌朝へ」という時間帯に沿っている生徒は県・全国よりも低かったが、朝から夜へという時間の流れに沿った解答が県・全国よりも多く、問いを最後まで読み取らずに解答したことも考えられる。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

○国語の学習が好きな生徒が「どちらかと言えば」を含めると6割以上を占めている。昨年度の3年生は8割以上だったことを考えると、国語好きを増やす努力が必要である。国語の勉強が大切だと思う生徒は多い。授業についてもよくわかると答えた生徒が多い。その他の国語に関する質問についての回答の傾向は県・全国とほぼ同様であった。

【 数学 】

《数と計算》

- 全国より平均正答率が高い。県とは概ね同じであった。
- 正負の数の計算の問いだけでなく、数学的表現を用いて説明する問いも、記述式にもかかわらず全国・県よりも正答率が高かった。
- 記述式の問いは全国・県と同様に2割以上の生徒が無解答であった。

《図形》

- 筋道をたてて図形の性質を証明する問いは、記述式にもかかわらず、全国・県よりも正答率が高かった。
- 証明したことを利用して図形の性質を見いだす問でも、正答率は全国・県よりも高かった。
- 記述式の証明を正答している生徒は4割に届いていないことや、無回答率が3割ほどであることから、証明の手順や三角形の合同条件を理解できていない生徒が多いことが考えられる。

《関数》

- グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを問う問題では全国・県よりも正答率が高かった
- 式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかを問う問題の正答率が6割強であることや、グラフで表されていることを事象に即して解釈することができるかを問う問題の正答率が全国・県よりも高かったことから、基本的な式やグラフの特徴の理解ができていると考えられる。
- グラフを読み取ることはできているが、数学的に説明することができるかどうかを問う問題では正答率は3割に届かず、無回答率も1割強であり、数学的に説明することに課題がある。

《データの活用》

- 全国・県よりも正答率が高かった。
- 2枚の硬貨を同時に投げ、2枚とも表が出る確率を求める問題は約9割の生徒が正答している。
- 特に、最頻値の用語の意味や四分位範囲を理解し図を読み取る問いの正答率はどちらも全国・県よりも1割ほど高く、基本的な用語の定義を理解できている。
- 複数の図を比較して数学的に説明する問いは、全国・県よりも正答率が高いが、3割に届いておらず、さらに無回答率が2割ほどである。図を正しく読み取り数学的に説明することに課題がある。

《生徒質問紙 数学に関する質問》

- 「数学が好き」と答えた生徒は全国・県と比較しても1割ほど多く、「どちらかと言えば」も含めると7割以上が好きと回答している。
- 解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒は全国・県よりも高い。
- 解けたときに、別の解き方を考えようとしているかという質問に「あてはまらない」と回答した生徒が全国・県よりも高く、解けることがゴールの学習になってしまっていることが考えられる。
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますかという問いでは、「どちらかといえば、あてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒が全国・県よりも高い。教科書等の問題を解くだけの学習になっていたり、将来役に立つ場面と今の学習をつなげられていなかったりすることが考えられる。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

○自己肯定感が高い。

○スマートフォンなどでのSNSや動画の視聴時間の3時間以上の割合が全国・県と比較して低かった。講演会などを通じて、利用について考えるよう促している効果は多少出ているかと感じた。(3割近くが3時間以上ではあるが)

○友人関係に概ね満足していたり、普段の生活の中で幸せを感じることがあることも結果から読み取れる。

○学習時間も比較的確保されている。

●「新聞を読む」頻度は全国・県も低い、本校も同様に低い。

●「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と思っていない生徒が約半数居り、また「先生はわかるまで教えてくれる」と思っていない生徒も3割ほど居るということを受け止め、相談のしやすさ、質問のしやすい雰囲気を作って行かなければならない。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・教科の授業や総合的な学習の時間の中でICT機器を活用した学習や自分の考えをまとめて発表する取り組みを重ねてきたことが生徒達にも自覚されており、また力にもなっている。今後もこれまでの取り組みを更に工夫しつつ継続させていきたい。

・英語の授業では、スピーチだけでなく、原稿の準備なしの即興的なやりとりについても生徒達が実感を持って行われていると認識してくれている。引き続き授業での取り組みで力を伸ばしていきたい。

・どの教科でも、短絡的に結論づけるのではなく、情報を読み取り把握する力、複数の情報を粘り強く整理する力を培う必要がある。深い学びにつながるよう授業の組み立ても工夫していきたい。

・SNSや動画視聴で損なわれる力について生徒達と共に考え、中学生との時期に身につけさせたい力の伸張に取り組みたい。

・この調査は4月の中旬に行われている。教科の学習について、「先生はわかるまで教えてくれる」と思っている生徒の率は低かったが、今年度は3学年に手厚く人を配置していることもあり、生徒の意識も変わっていることを期待したい。しかし、どの教科でも「生徒がわかるまで」指導することは今後も徹底したい。

・友達関係が良好なので、相談事も友達同士の関係性の中で解決できているのであれば有り難い。しかし、相談のしやすさについても学校として意識的に取り組んできたところなので、この学年の生徒が求める相談のしやすさについても具体的に検討し、必要な対策はとっていきたい。